

NPO法人グループホーム花梨

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14725000287	事業の開始年月日	平成13年11月1日	
		指定年月日	平成13年11月1日	
法人名	特定非営利活動法人グループホーム花梨			
事業所名	NPO法人 グループホーム花梨			
所在地	(249-0002) 神奈川県逗子市山の根3-20-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入浴を夕食後にしている点（夜間の徘徊がない効果がある）</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年12月7日	評価機関 評価決定日	平成22年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>◆「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」（センター方式）に加え、ICF（国際生活機能分類）も取り入れてアセスメントを行い、利用者の思いや意向を介護計画により多く反映させ、その人らしい生活の支援に努めている。</p> <p>◆居室の入口には、利用者の名前が書かれた手作り刺しゅうの額を掛けたり、居間には、手作りのクリスマス飾りや手芸品を飾り、食事では手作りのランチョンマットを使用するなど、手作りの品を取り入れて生活に彩りを添えている。</p> <p>◆地域の盆踊りや焼き芋会、夏祭り等に参加し、また、ハロウィンでは利用者が子どもたちにお菓子をふるまうなど、地域との交流を重視している。自治会へ加入しており、来年は地域の役員にあたるので、地域との交流をさらに深めたいと考えている。</p> <p>◆消防署の立会いのもと、利用者が参加して事業所独自の避難訓練の実施や、地域の訓練に利用者と職員が参加している。消防署には利用者の顔写真を情報提供し、緊急時の協力を仰げる関係を築くなど、災害時・緊急時に備えている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

NPO法人グループホーム花梨

事業所名	グループホーム花梨
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念があり、出勤毎に目に入る場所に設けているものの、職員全員の共有ができていないと、実践につながる努力が十分ではない。	事業所独自の理念に基づき、会議等を通して職員の共通理解を図り、毎日とその人らしく生活してもらうよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、子供会を通しての行事参加や、自発的活動の中においても、交流ができる場面が多くある。	自治会に加入し、地域の盆踊りや焼き芋会、夏祭り等に参加している。敬老会やハロウィンなどで地域の方たちが来てくれたり、庭に咲いた花を持ってきてくれるなどの交流がある。来年は地域の役員にあたるので、地域との交流を深めたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人的な相談や行政をとおしての案件などの対応はしているが、事業所として自発的な活動には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業報告、話し合い等は行われているが、サービス向上へつながっているとは思われない。	事業所から報告の後、出席者より意見等を受けている。市介護保険課の担当者から、インフルエンザへの対応についてアドバイスを受けるなど、出された意見をもとにサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外に事業活動について積極的に報告することはないが、必要時には情報交換はしており、協力関係は良好。	市が行う認知症対応型サービス管理者研修などに参加したり、介護保険法改正の説明会などに参加するなど、市と連携して、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解しているとはいえないが、積極的に取り組んでいる。ただし、ご利用者の状態に応じ、やむを得ず施錠することはある。	虐待に関する自己点検シートや人権に関する会議を開催し、職員の認識を高めながら取り組んでいる。玄関は開放していたが外出者が出たため、会議で話し合い、家族の了解のもと、施錠をしている。徘徊の傾向が多い夕方は、見守りを強化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に“高齢者虐待防止法”についての確認や、話し合いの場を持ち、アンケートを行うなど各自が己の行動やサービス内容について振り返る機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいるため、説明は行ったが、職員全員が理解できているとはいえず、学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を得るための説明に努めると共に、ご家族のご希望などに十分に耳を傾けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン提示時・家族会議事だけではなく、必要に応じ日常的に話していただき、サービスへつなげる努力をしている。必要であれば外部（市役所等）へ話していただくよう説明をしている。	家族の面会時には職員から積極的に話しかけ、また、家族会では職員は席を外すなど、家族が意見や要望等を出しやすいよう工夫をしている。介護計画作成時は個人面談を行い、意見等を聴いている。意見や要望等がある場合は、処遇会議等で検討のうえ、対応している。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度は全員参加の会議の場を設けておりサービスへ反映するよう努めているものの十分な話し合いの場とはいえ	職員会議を通して、職員から意見を聴いている。これまで、利用者の支援や行事について、意見や提案があり、職員間で共有し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、経験、職務姿勢などを給与に反映したり、労働時間の調整など働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会・外部研修会・介護福祉士資格習得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホームに関して交流会、勉強会、相互訪問の提案を当ホームから働きかけを行ったが、以後進んでいない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接、アセスメント、聞き取りにて全職員が情報把握をした上で受け入れを行っている。		

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接での聞き取り、アセスメントだけではなく、多くの情報やご希望を話していただけるよう日常的な働きかけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先させるべきことを見極めた上で、それを軸としたプランを作成し、受け入れを行い、入所後の生活状況から必要とされるサービスをプラスしていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における様々な場面を共に活動するよう対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係の継続や、新たな関係の構築の促進など、共に支えていくことへの協力を働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設として可能なことはつとめているが、ご家族の協力体制が充分とはいえず、困難なことも多い。	アセスメントで、利用者本人のこれまでの馴染みの人、会いたい人、会いに来てくれる人などを把握している。希望により、家族に電話をかける手伝いなどを行っている。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重・軽度の差がある中で様々な関わり方の場面を作っている。孤立しがちな方には個別対応などで対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方の訪問を行ったり、ご家族からの相談に対応したことはある。また、終了後も訪ねてくださるご家族などもいらっしゃる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の発言、行動から把握することを職員は意識し、職員全員が情報共有できるように記録だけでなく、日常的に言葉でも伝えあうように努めている。	利用者と一対一になる入浴の際にゆっくりと話を聞き出したり、また普段の会話や行動から意向を把握し、意向に沿った生活を送れるよう努めている。把握した希望や意向は、処遇会議で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取り、アセスメントなどから把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録、申し送りノート、言葉での申し送り排泄表、朝夕のバイタルチェック表など情報共有できるようなシステムを使い、把握するよう努めている。		

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員参加の会議にて計画作成しており、主治医の意見、協力も得やすい状態が普段からある。ご家族にもご意見、了承を得て作成している。	「センター方式」とICFによるアセスメントをもとに、処遇会議で検討を行い、3～4カ月ごとに介護計画を見直し、また、状態に変化がある場合には随時見直している。見直しにあたっては、家族の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート排泄、バイタル記録などあり、情報共有やプラン作成に活かされている。但し、状態把握の記録には個人差があり観察力、記述への努力が必要		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス外のケースはこれまではなかったが、今後必要のある場合には職員全員で検討していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域資源の利用や協力を得て、安全な生活を守れるよう支援しているが、生活が豊かになるような活用ができていないといえず。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医を承諾していただき、専門医への受診はご家族の対応としている。また、かかりつけ医と専門医の連携もできている。	これまでのかかりつけ医に受診できることを、入居時に説明している。かかりつけ医への通院は、家族が付き添うが、家族から受診結果を聞き、個人記録や申し送りノートに記載して、情報を共有している。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だがホームのかかりつけ医が365日24時間、相談、指示対応のできる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、管理者が病院関係者と情報交換を密にし、早期退院に向け努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者との話し合いはほとんどないが、ご家族とは早い段階から話をしており、ターミナルケアではその都度ご家族、主治医、ホームの三者で相談、決定をし支援をしている。	利用者の状態や家族の希望により、家族、医師、事業所の職員と話し合い、終末期ケアを行うこととしている。家族、医師の協力のもと、看取った方がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練や講習を受けているが、職員全員が実践力を身につけているとはいえず。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同上。地域消防団に協力を得ている。	消防署立会いで、利用者が参加しての事業所独自の避難訓練の実施や、地域の訓練に利用者と職員が参加している。消防署には利用者の顔写真を情報提供し、緊急時に協力を仰げる関係を築いている。職員は救急法の研修を受講し、事業所では約3日分の備蓄をしている。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議では再確認を重ねているものの現場においてはなれ合いや職員の苛立ちなどから、言葉の使い方が軽率で乱暴になりやすい。	利用者への言葉かけや、職員間の会話などを申し送り時に確認し合っている。利用者や家族の意向により、本人が安心する呼び方をしている。居室、トイレなどすべてのドアにカーテンが掛けられ、プライバシーの保護をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉だけではなく、様子観察から思いを引き出すような声かけ、働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な方々にはそのように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でされない方には支援している。ご自分でされる方にも季節に適するように介入することはある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けなどは共にしており、食事の際には1テーブルに職員が1人はつくようにしている。	配膳・下膳・食器拭きなど職員と一緒にやっている。献立は野菜を中心に、主菜は昼と夜で重ならないようし、朝食は時々焼立ての手作りパンを提供している。利用者の嚥下状態により、食事の形態を変えている。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態など状態にあわせている。1日の水分量には特に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯間ブラシ、ブラッシング、義歯消毒を必要に応じて支援している。定期的に歯科往診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間による誘導や声かけなどその方に合った支援をしている。衛生保持が難しい方が多く清拭介入もほとんど行っている。	生活リズムパターンシートを用い、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間による誘導や声かけなど、その人に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量摂取や活動量の維持、増加に努めている。必要な方には下剤使用し便秘にならぬよう常に努め良好な結果を出している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせることはないが状態によりタイミングで入浴していただくことはある。利用者によっては3日だがほとんどの方に2日に1度、就寝前の入浴にしている。夏場は毎日の方もいる。	夕食後を入浴時間としている。入浴を拒む人には、日にちを変える、声かけを工夫するなどしている。季節の入浴として、菖蒲湯を行っている。	

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況やご本人の意志で休息していただいている。就寝時間は特に決まっていないため、就寝前に趣味などで過ごす方もいる。認知症による睡眠障害のある方には、日中起きてもらうよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、副作用への理解が職員間で差があると思われる。支援に対しては薬の分け方や、与薬方法、変化の確認など統一認識している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り先のような支援に努めているが、利用者にとって喜びのある日々であるのかは疑問。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人差があるものご家族の協力にて出かけている方もいる。	毎日散歩をしたり、車で買い物に出かけている。また、初詣、イチゴ狩り、花見など、季節ごとに外出をしており、居間に外出時の写真を飾っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は所持していない。所持されている方でもご家族の希望にて使い方に制約がある。		

NPO法人グループホーム花梨

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は自由にかけている。以前にはかけることができない方に代わってかけることもあった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はほぼ毎日行い、音、光などその都度調整している。施設らしくはない内装や季節感のある花、雛人形、クリスマスツリーなどを飾り、利用者の楽しみでもある。	居間にはゆったりとしたソファが置かれ、手作りのクリスマス飾りや手芸品がきれいに飾られている。食堂は窓が広く、山の紅葉が眺められるなど、明るくゆったり落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようにしている。また、トイレや浴室は、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さほど広くはない中でも自由に動くことができ、座る場所も確保しており利用者のみで過ごしている姿もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族がご本人のことを考えて部屋作りをしている。ご家族のない方にも不快がなく、混乱のないような部屋作りに努めている。	居室の入口には、利用者の名前が書かれた手作り刺しゅうの額が掛けられている。室内は、タンスやベッドなど、使い慣れたものが置かれ、タンスの上には家族の写真や位牌等が飾られるなど、それぞれの設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線が安全であるように手すりやスペースを考えている。場所を示す標示などは敢えてつけない方針としている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 NPO法人グループホーム花梨

作成日 平成22年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	目標達成計画の作成が遅い	外部評価の結果をふまえずみやかに目標達成計画を作成する	外部評価の結果を全職員で検討し、目標達成計画を作成する	1日
2	4	目標達成計画の提出が遅い	目標達成計画を作成し、速やかに提出する	目標達成計画を速やかに作成する	1ヶ月
3	2	自己評価の目的達成について話し合い不足	自己評価の結果をふまえ、目的達成について話し合う	自己評価のまとめを全職員で検討を行い、目標を作成する	1ヶ月
4	1	事前の説明不足	事前に外部評価の意義について伝える	事前に家族会、全職員に外部評価の意義を伝える	1ヶ月
5	3	対話から、事業所の努力、工夫を気づきを得た	事業所の努力、工夫を明確に伝える	事業所の努力、工夫を家族会や運営推進会議等で伝える	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。